

教え子を再び戦場に送るな

2面・原発よ、さようなら 全国集会
・県教育のつどい案内



第393号
2014年
10月22日

発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyouso.jp/
e-Mail info@s-koukyouso.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

月例給・一時金ともに国並み改定 — '14 人事委員会勧告 —

人事委員会勧告の主な内容

- 公民較差 月例給で2780円(0.72%)、一時金で0.15月民間が公務を上回る
- 月例給 0.3%引き上げ 特例措置として0.11%上乘せ
- 一時金 0.15月引き上げ4.10月(再任用職員も同様)
- 地域手当 3%から3.4%に引き上げ
- 「給与制度の総合的見直し」国に準じて15年度から導入
 - ・給料表を一律2%引き下げる
 - ・地域手当を段階的に3.7%に引き上げる
 - ・扶養手当配偶者以外1000円引き上げる
 - ・3年間の「現給保障措置」を講ずる
- 「メリハリある教員給与」 推進に向け見直しに取り組むよう報告
- 「人事管理制度」 法律に則って適切に実施するよう報告
- 「教職員の多忙化解消」具体的な施策を確実に実行することを求める

県人事委員会は、10月17日、知事と県議会に対し、今年度の給与改定に関する、月例給で0.72%、一時金で0.15月民間が上回ったとしてそれぞれ改定するよう勧告しました。月例給で0.3%引き上げ、特例措置(給料月額に一定の率を上乘せする措置)として0.11%上乘せ。一時金は0.15月引き上げ、4.10月としました。諸手当では地域手当の引き上げが盛り込まれました。一方人事院が15年度から実施することを求めた「給与制度の総合的見直し」について「世代間較差と国の制度」を理由として、来年度からの実施を勧告しました。

消費増税・物価高で実質賃金低下 生活改善には程遠い

諸手当の改定は地域手当のみでこれまでの3%から3.4%に引き上げるとしてあります。月例給は大卒初任給の2級5号で2200円の改定、以下123号で200円、以降改定はありません。1級61号は1500円の改定です。一時金改定は勤勉手当に充てられます。7年ぶりの改善勧告は民間と公務労働者の共同した粘り強いたたかひの成果ですが、これまでの

給与カットや退職手当の大幅削減、現給保障廃止、あわせて4月からは消費増税による物価高で実質賃金が下がっている中で公務労働者の生活改善には程遠い勧告であり、極めて不満な内容です。高教組はこの間人事委員長、局長交渉4回、要請行動を3回実施し、職場からの声を届け、改善勧告を求めてきました。ご協力ありがとうございました。

勧告は12月県議会に提出され、承認されれば、12月中に改定分(差額)が支給されます。

給与改定・勤務条件改善等に関する主な要求

- 教職員の給与水準を、いずれの年代や階層でも、本県財力に見合う水準に引き上げること。
- 「メリハリある教員給与」の名のもとに出された「給料の調整額」の削減は行わないこと。
- 一時金の支給月数の改善を行うこと。引き上げ分は期末手当として支給すること。
- 扶養手当・通勤手当など諸手当の改善を図ること。
- 「給与制度の総合的見直し」は実施しないこと。
- 「業務記録簿」の結果をもとに、時間外業務の縮減目標△15%を達成すること。
- パワーハラスメント防止指針を策定すること。セクシャルハラスメント防止の周知徹底を図ること。
- 「教職員人事評価制度」を廃止すること。賃金・処遇とリンクさせないこと。
- 臨時教職員の勤務条件、待遇改善をすすめること。
- 30人(以下)学級の実現、教職員定数改善計画の実現を文科省等関係省庁に働きかけること。
- 「公立学校等就学支援金」の所得制限を撤廃するよう、文科省等関係省庁へ要請すること。また所得制限導入による事務量の増加など、教職員の負担軽減策を講ずること。
- 特別支援学校の狭隘化・大規模化を解消する新たな施策、計画を策定すること。



人事委員会交渉

強い反対の声を無視して「給与制度の総合的見直し」を勧告

国家公務員の俸給表を平均2%引き下げ、それを原資として、民間給与の低い地域には20%の割合で配分し、地域手当として支給することを主な内容とする「給与制度の総合的見直し」に関して、本県には地域較差はないとしながら、「制度は国に準じて導入、世代間較差は相当分ある」として一律2%引き下げ、地域手当を段階的に37%に引き上げ、扶養手当を改善するとしました。なお国と同様に3年間の「現給保障」期間を設けるとして、10月末から対県教委交渉、要請行動を実施します。

職場の声を届け、要求を実現するため署名等のご協力をお願いします。

集団的自衛権行使を許さない 教職員九条の会が学習会

秘密保護法強行、集団的自衛権行使容認の閣議決定など国民の願いを踏みにじる安倍政権の暴挙・暴走に対し、「九条の会」は10月1日に「全国統一いつせい行動」を呼びかけました。「静岡県教職員九条の会」(代

設けるとしています。人事委員会勧告を受け、対県教委交渉が始まります。高教組は10月9日付けで「給与改定・勤務条件改善等に関する要求書」を提出、重点要求(左表)も示し、10月末から対県教委交渉、要請行動を実施します。

— 教職員九条の会学習会 —

日時 11月15日(土) 13:00~
場所 県教育会館地下会議室
講演 西ヶ谷知成弁護士



視座

人間は二つの規範で行動するんだとか。市場規範と社会規範。前者はいわゆる損得勘定。後者は他者との関係、正義感や使命感や愛情など。ある託児所で迎える時間に遅れる保護者がいたんだそうです。そこで遅刻をなくすために、罰金をとるようにしました。すると、とたんに遅刻が増えただけです。慌てて、罰金をなくしたのですが、もう遅刻が減ることはなかったそうです。最初は遅刻する親でも残ってくる保育士に申し訳ないと思っていたんです。ところが罰金制度が始まったら、金を払えば遅刻できると思うようになったのです。つまり、社会規範で行動していた保護者が、罰金によって、市場規範に則るようになったという事。そこで、罰金制度をやめたのですが、いったん市場規範で動き始めた人間をまた元の社会規範に則らせようとしても、もう無理のようです。▼成果主義賃金で教員をさらに働かせようという企みがあるようですが、どの学校でも、市場規範で、つまり、カネのために日々奮闘する教師は皆無。社会規範で学校は働いているのですから。ここに市場規範を導入したら……あの想像力のない方でもおわかりになるはず。そう、人はカネのみで生きるにあらず。

原発よ、さようなら

「さようなら原発全国大集会」(9/23)東京・亀戸中央公園



「再稼働は許さない」 大江健三郎氏

9月23日(火)、東京亀戸中央公園でさようなら原発100万人アクション主催の「さようなら原発全国大集会」が開かれました。酷暑厳しい中にもかかわらず、1万6千人が参加。特に川内原発(鹿児島県川内市)の「再稼働」を許さないをメインスローガンに熱気あふれる集会となりました。第一ステージでは、まず、反原発ソングで知られるエセタイムズが熱唱。続いて鎌田慧・大江健三郎・落合恵子・広瀬隆等の著名人が原発反対の思いを訴えました。

みんなの力を結集し、原発なくせ

ノーベル文学賞を受賞した作家の大江健三郎さんは、「原発がなくてはならないというのはウソだ。そして、原発反対の声は、弱まっていない。再稼働や集団的自衛権の行使しようとする安倍政権に対し、私たちは断固として進まなければならぬ」と述べました。

ルポライターの鎌田慧さんは、川内原発の再稼働の前提となる審査書を原子力規制委員会が9月10日に決定したことに抗議。「安倍政権は亡国の政権。原発再稼働は、電力会社や原発メーカーの金儲けのためでしかない。絶対に原発をなくせ」と呼びかけました。

原発が無くて夏を乗り切っても

「東京に原発を」の著書で知られる広瀬隆さんは「国民の72%が原発反対だ。闘いは、ゲリラ戦になる。がんばろう」と訴えました。

「東京に原発を」の著書で知られる広瀬隆さんは「今日これだけの人が集まった。世界が原発をやめるように、平和憲法とともに呼びかけていこう」と述べました。また、第五福竜丸の元乗組員大石又七さんも車イスで登壇。「ビキニと原発はつながっており、同じ事がくり返されようとしている」と述べました。最後に、作家で元アナウンサーの落合恵子さんは、「この夏も全国の原発が稼働しなくても問題なかった。しかし今、政府は再び(再稼働反対という)民の声を切り捨てようとしている。怒り直しく、明るく希望に満ちたフェシズム(悲観主義)を手にして生きていこう」と語りました。



主張

川勝知事の「全国二斉学力テスト」結果の校長名公表により「学力テスト」の持つ教育の弊害が層明らかなっています。

高教組は全日本教職員組合とともに全国二斉学力テストが「過度な競争や序列化」を招くこと、子どもたちの実態を無視した「テスト対策」や「学力向上策」が押し付けられ、結果として子どもたちの学習権が侵害されることにつながることを指摘し、その

教育に弊害

全国二斉学力テストの中止を求める

どが報告されています。川勝知事は今年度「市町村の同意なしに正答率や校長名を公表」し、

争われた旭川学テ訴訟最高裁判決(1976年)は、「試験問題の程度は全体として平易なものとし、特別の準備を要しないものとする」と「個々

日、文科省は全国二斉学力テストの委託事業について、小学校はベネッセコーポレーション、中学校はJPMメディアデザインが落札したと発表

しました。ベネッセコーポレーションは情報流出事件を起こし、国民的な批判が起きました。

文科省は教育に弊害をもたらす全国二斉学力テストを直ちに中止し、子どもたちの実態から出発する教育と教育政策を実現するよう、強く求めます。

8月28日、文科省は教育に弊害をもたらす全国二斉学力テストを直ちに中止し、子どもたちの実態から出発する教育と教育政策を実現するよう、強く求めます。

文科省は教育に弊害をもたらす全国二斉学力テストを直ちに中止し、子どもたちの実態から出発する教育と教育政策を実現するよう、強く求めます。

文科省は教育に弊害をもたらす全国二斉学力テストを直ちに中止し、子どもたちの実態から出発する教育と教育政策を実現するよう、強く求めます。

第7回 静岡県教育のつどい

語り合おう！ 今、子育て・教育に求められるもの
～豊かな育ちと学びのために学校と地域にできること～

主催	静岡県教育のつどい実行委員会
後援	藤枝市・藤枝市教育委員会
日時	2014年11月22日(土)・23日(日)
会場	静岡県立藤枝北高等学校
参加費	無料(弁当代700円、太巻き寿司、もちつきには材料代500円)
11月22日(土) 12:30～13:00 受付	
「うごく・みる・かたる」公開講座「学びの楽しさ実感しよう」	
公開講座1	公開講座2
13:30～14:30	14:40～15:40
講座名・内容	講座名・内容
文学を楽しく味わう	子どもの心にお話のタネまきを
よくわかる楽しい算数	目に見え、体験する数学
東海地震から命を守る	よくわかる放射線
「道徳とは？」	「学活」で集団づくり
おわらい英語喫茶	何のための英語教育か
ピカソの魅力満喫	水墨画を体験しよう
図書館を使った授業	討論で深める現代社会の授業
遊びは子どもの文化	音楽 歌とダンスで仲間作り
コマ回しなど伝承遊び	つながり遊び

◆文化の夕べ 16:50～17:30
朗読劇「蓮花寺池を守った人たち」「検味を越えた茶娘たち」(びくの会)

11月23日(日) 9:30～10:00 受付
記念講演 渡部 達也さん (NPO法人 ゆめ・まち・ねつと代表)
「豊かな育ちと学びのために地域にできること」
テーマ別「共育」分科会 13:30～15:30

	テーマと語り合いたい内容
A	子どもたちにほんものの「学力」を 子どもたちに身につけてもらいたいのはどんな「力」なのでしょう。「学力テスト」ではかれるのでしょうか。点数の競争に駆り立てられて息苦しさを感じてないでしょうか。いまこそ、学校、地域の「共育」力が試されるとき。教師、父母、行政で知恵を寄せ合ひましょう。
B	子どもたちに豊かな遊びを ちゃんと遊ばないと、しっかり学べないのかもしれない。地域で活動する子ども会、放課後児童クラブ、プレパークを始めた藤枝市の実践をもとに、遊ぶことの意義とその大切さうい考えましょう。
C	たいへんだけど、楽しい子育て 子どもの成長は喜びであると同時に迷いと悩みの連続。「子ども・子育て支援新制度」のめざす方向も学びながら、悩みや願いを共有し、地域のみんで楽しく子育てする、子育て支援のありかたを考えましょう。
D	「違い」を認め合う地域・学校に 「できる・できない」「わかる・わからない」という見かたをこえて、「つまずき」や「障がい」、その他の特別な支援を必要とする子の「育ち」と「学び」と「共生」のあり方を考えましょう。
E	地域に学ぶ子どもたち・若者たち 「必要とされ」「活動しながら学ぶ」子どもたちや中学生、高校生。地域と結びついた活動の報告から、地域と学校との関係をとらえなおしましょう。

※いずれの分科会も、それぞれに関係する行政の方のご出席をお願いしています。関係する施策についてのお話をお伺いしたいと考えています。

ひらかれた教研に

子育てや教育の現場では、さまざまな悩みや問題が山積み。子どもたちの育ちはどうあるべきか、学校とは何か、ほんとの学びとはなにか、地域や社会がどう支えるべきかがあためて問われています。

地域にうって出よう

今年の県教育のつどいの目玉は、まず公開講座。「学びの楽しさを実感しよう」と17の講座を開設します。子どもから大人まで、もちろん教師も自由に参加できます。

地域をつくらう

もう一つの目玉は「共育」分科会。地域で活動する様々な団体や藤枝市の行政もふくめて、子育て・教育の課題を一緒に、考え合ひましょう。